

全日本野球会議 審判技術委員会 第13回アンパイヤースクールに参加して

新潟県高野連 審判委員 南支部(長岡)

星野 公人

全日本野球会議 審判技術委員会主催による第13回アンパイヤースクールが、平成24年12月1日～2日の2日間、千葉県柏市の JR 東日本硬式野球部柏グラウンドにおいて開催されました。概略となりますが、なるほどと思った事、指摘をいただいた事などを報告させていただきます。

1. 投手の投球動作 桑原 和彦講師(全日本アマチュア野球連盟)

- ・身体の前でグラブを静止 ⇒ なぜ？フェアの精神を重んじる。
- ・牽制球 ⇒ 最初の動作で塁に足を踏み出す。(首は動かす事ができる。これは最初の動作ではない)
 - (例) 最初の動作で足を上げて下げたら投球動作 ⇒ ここから塁に足を踏み出して牽制球を投げたらボーク。
 - (例) 最初の動作で膝を折ったら投球動作 ⇒ ここから塁に足を踏み出して牽制球を投げたらボーク。



2. 一塁フォースプレイ

- ・カメラの焦点をベースに合わせる。
- ・どうだ？！ ⇒ セーフ *確認してからセーフとコール。
- ・引っ張るほど余裕が無くなる。早く目を切って待つ。カメラのシャッターを切る感じ。
- ・フォースプレイの見方 ⇒ 基本はボール。送球を見ないで触塁だけ見る人が多い。送球を見る中に触塁確認がある。きれいいに見る。

3. 二塁盗塁

- ・タッチされる走者の足をさがす。ずうっとボールを見ているとアウトに見えてしまう。

4. 二塁でのダブルプレイ

- ・野手のグラブの面を見る。

5. 塁審同士のコミュニケーション

- ・「GO OUT!」「OK!」声のコミュニケーション。動いたら自分の塁に横のアンパイアが来ているか確認する。

6. 二塁塁審の立ち位置 下記のように位置すると習った。 原 NPB 審判員より

- ・内野に位置する場合 右投手 ⇒ 一塁側 左投手 ⇒ 三塁側
【理由】 打者に対し投手のリリースポイントを見やすくする。邪魔にならない位置取りをする。
- ・外野に位置する場合 右打者 ⇒ レフト側 左打者 ⇒ ライト側
【理由】 打者は、やはり引っ張る打球が多い。打球に近い位置で判定する。

7. ハーフスイング

- ・打者がバットスイングコントロールを失ったものを「スイング!」としている。
- ・塁審もトラッキングを行う。トラッキングを行う事でハーフスイングの判定精度が増す。

8. 走者一塁、左中間の飛球を三塁塁審が GO OUT! 二塁塁審の動き方

- ・マウンド方向に移動し、視野を広くとる。一塁走者の二塁触塁を確認 ⇒ 打者走者の一塁触塁確認 ⇒ 二塁でのプレイに備える。触塁だけ見るのではなく、打球の行方を追うなかには走者の触塁確認があるという意識を持つ。

9. 球審の投球判定

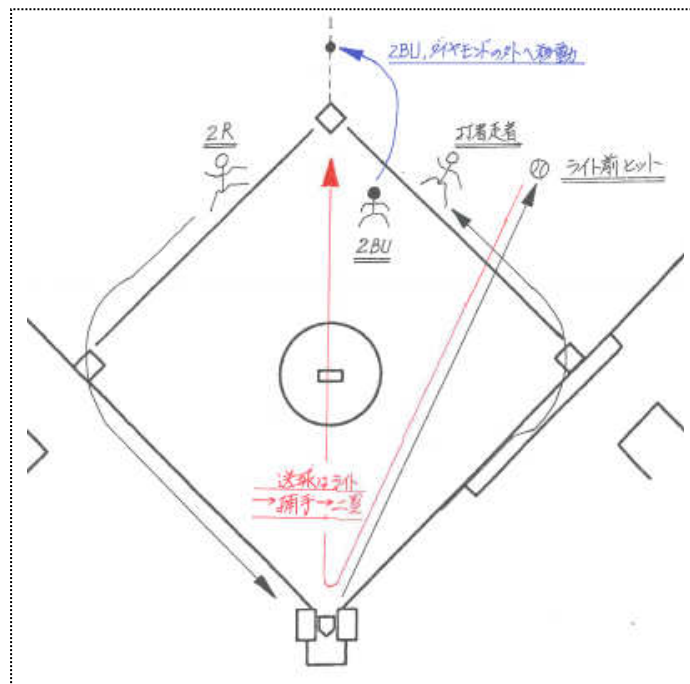
- ・くそボール(あきらかなボール)をしっかり見る。大事に見る。コールもゆっくりと。⇒ これを心がけるときわどいボールの判定精度が増す。
- ・イージストライク、イージボールほど、コールが早くならないように。キャッチャーのミットを見てコールする。



- ・オンザラバー → ゲットセット *ゲットセットが早すぎると指摘を受ける。
「ピッチャーの足が地面に着地した時にゲットセット完了するぐらいのタイミングでやってみてください。」
- ・ストライクコールの右手 こぶしが少し右を向いている(猫の手)と指摘を受ける。
「小指の付け根で前の壁をノックする」意識を。

10. 二塁塁審の動き

- ①内野に位置した時、用事がなくなったら外に出る。
(例) 無死走者一塁で長打が打たれた。打者走者は三塁まで進むケース。当たり前かもしれないが、打者走者が三塁に到着時点で、自然な動きで外に出る。
- ②走者二塁でライト前ヒット。二塁走者は、ホームを狙う、ライトは本塁に送球、クロスプレイ。これを見た打者走者は、二塁へ進む、ボールは捕手から二塁へ送球される。
二塁塁審は、内にとどまっているのではなく、セカンドベース後方に移動し、ボール ⇒ ベース ⇒ 自分 の位置を取り、二塁でのプレイをジャッジする。



11. 夜の座学において

- Q プロ野球中継を見ているとストライクが広いと感じるが？
A ストライクを積極的に言おう。「ボ〜〜〜ル」と唸る投球を「ストライク！」にする努力をしている。
- Q 先程、メカニカルハンドブック(第4版)を購入したが、ライン付近の打球のジャッジが変わったが理由は？
A 世界のやり方に合わせた。

12. ヒットバイピッチ

- ・わざと当たりにいった、避ける事のできる投球を避けなかった場合、ヒットバイピッチではなく「ボール」とするが「ボール」のコールだけでは、周囲（ベンチ、観客、本部席など）はわかりにくい。

この時の一工夫 ⇒ 「一塁に行けないよ、バッターボックスに居なさい」という意味をこめて打者の足元を両手で数回指差す。 桑原和彦講師より



13. 二人制フォーメーション

- ・プロ野球アンパイアより二人制フォーメーションの模範が実演された。MLB アンパイアキャンプに参加したアマチュア審判員の報告でも6日間の講習は、すべて二人制フォーメーション(ツーメンシステム)のみだったという報告有り。

最後に

- ・ 同じ打球を追ったり、同じ投球を判定しても、やはり NLB(プロ野球)アンパイアやアマの講師の方は、「反応」、「間」、「立ち位置」、「構え」etc……が違います。説得力有！自分と何が違うのか……？
- ・ 参加される受講生は、志が高い方が多くとても刺激になります。
- ・ 質問コーナー(約 1 時間)も設けられていて、質問に対し、プロ、アマ講師の「引き出し」から出てくる「なるほど！」という回答が聞けるのもこのスクールの魅力のひとつです。
- ・ 参加者111名に対し新潟県からの参加が14名と全体の一割強を占めていました。これも新潟県高野連のご協力があるのと思います。厚く感謝を申し上げます。日々精進し、審判技術向上に努めていく所存です。

以上

第13回アンパイアスクールに参加して

新潟県高野連 南支部【長岡】 野本

幸一

【期日】2012年12月1日(土)～2日(日)

【会場】JR東日本グランド/クリアビューホテル

参加者：111名

【主催】全日本野球会議 審判技術委員会
波大学

協力チーム：中央学院大学/筑

【講師】

- ・アマチュア：中本 尚氏/小山克人氏/桑原和彦氏/村松 忠氏/元雄 潤氏
9人 堀井 明氏/林 清一氏/鈴木孝則氏/山口智久氏
- ・NPB 6人：井野 修氏/森 健次郎氏/笠原昌春氏/栄村孝康氏/牧田匡平氏/橋本
信治氏

他若手審判員

◆日程

=第一日目=

【スケジュール】	【内容】
・10:30～11:00	受講者受付
・11:10～11:20	講師紹介・スケジュールの説明・班編成の発表
・11:20～12:10	準備体操・球審及び塁審のジェスチャー・Go-Stop- Call
・12:10～12:50	投手の投球動作に関する説明
・13:00～13:50	球審の構え方・ストライクゾーンの説明・投球判定練習
・14:00～14:50	フォースプレイの判定練習・二塁盗塁練習・ダブルプレ イ
・15:00～15:50	本塁周辺でのプレイ
・16:00～17:00	移動
・17:00～18:00	夕食
・18:00～21:00	座学

=第二日目=

【スケジュール】	【内容】
・6:00～7:00	起床～朝食
・7:00～8:00	移動
・8:20～9:00	準備体操・ストレッチング・塁審のジェスチャー・発 声練習
・9:10～10:00	投球判定練習

・ 10 : 10 ~ 11 : 00	打球の判定練習
・ 11 : 10 ~ 12 : 00	キャンプゲーム (I)
・ 12 : 00 ~ 12 : 30	トラブル (抗議に対する対応)
・ 12 : 30 ~ 13 : 10	昼食
・ 13 : 10 ~ 14 : 10	キャンプゲーム (II)
・ 14 : 10 ~ 15 : 10	講師との質疑応答
・ 15 : 10 ~ 15 : 20	Go - Stop - Call !
・ 15 : 20 ~ 15 : 40	閉講式 講評

◆はじめに・・・

上記のスケジュールに基づき、2日間の日程でアンパイアスクールを受講してきました。基本的には昨年を受講内容及び春に行われる講習会と同内容と思いますが、新たに受講を通して学んだこと、得た内容を下記のようにご報告させていただきます。

◆投球動作関連の説明

- ・ 野球規則 8・01 正規の投球についての説明→毎年春の講習会とほぼ同じ内容。
- ・ 投手は投球する為にマウンドに立つものである。
- ・ 投球動作の中断や膝をまげてからの一塁への牽制球はボークである。
- ・ “ボーク” “ボーク” と、重箱の隅をつつくべきではない。野球がつまらなくなる。

◆球審関連の説明・注意点

- ・ 日本のアマチュア野球では”スロットスタンス“を用いている。
- ・ 球審の構えの3大ポイントは①スロット足のつま先が投手板方向に向いていること ②ホームプレートが全部みえていること③構えた姿勢が自分にとって快適なこと。
- ・ スロットポジションは打者と捕手の間に入り込むもの。
- ・ ホームベース上方空間が見えること、見える位置を探すこと。
- ・ 右打者の時の右腕は膝の上部に軽く添えるが、自然な形・楽な形で問題はない。
- ・ 本塁で判定する位置は、本塁ベース後方で一度確認し、グラブと走者の間で見える位置取りを習得して貰いたい。←昨年は三塁～本塁の延長線上がベストと言っていた。
- ・ 球審のストライク／ボールの判定は常に一定であること。クソボールはコールが早くなりがち・・・。イージーボールの時こそタイミングをしっかりと取ること。
- ・ トラッキングをしっかり行う。オンザラバー～リラックスまでのリズムづくりが大切。
- ・ ムダに動くな！
- ・ 捕手の立ち位置を見て、“オブストラクション”を未然に防止しよう。
『キャッチャー、足！足！』等の声掛けが必要。

- ・スタンディングからハンズオンニーへ移行し、判定を行う。
- ・打者がよけずに投球に当たった場合、両手人差し指で地面を指し、ヒットバイピッチではない旨を知らせる方法もある。

◆ 1 塁塁審の説明・注意点

- ・塁審もトラッキングが必要である。ハーフスイングでのリクエストに備える。
- ・内野ゴロで悪送球になる場合は、野手の投げ方で分るものだ。投げ方に注視してみよう。
- ・野手が送球したタイミングで一塁へ目を移すのがベストではないか。遅すぎず、早すぎず。
- ・多い判定の間違いは“セーフをアウト”している。

◆ 2 塁塁審の説明・注意点

- ・ I n f する意味は、盗塁とダブルプレイの為だけに i n f している。打球が放たれ、プレイの機会がない場合は内野の外に出ていること。
- ・ダブルプレイの際は、わざわざセットポジションをとらなくても、スタンディングでOK。それだけの時間的余裕はないはず。
- ・判定は最後までじっくり見てから行う。“アウトの後のセーフなし！”

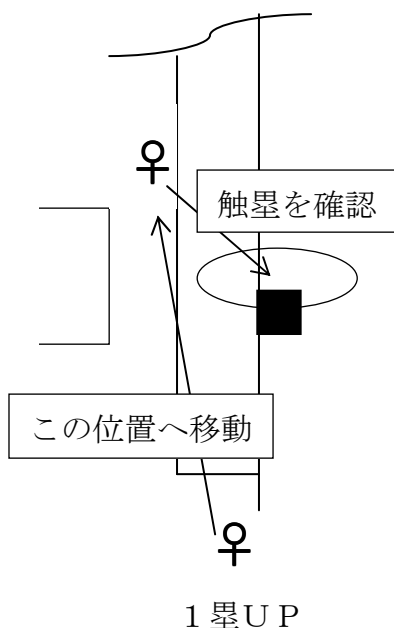
◆その他・キャンプゲームにおいて

- ・とにかく準備が大切。プレイを予測すること。
- ・何事も決めつけない。サプライズや想定外だと言うことはNG。
- ・ボークは同調する。プレイを止めるタイミングを間違わないこと。
- ・外野の打球を追いかけ、ゴアアウトする場合“ゴアアウト”と声を出すこと。他の3人の審判員は“オッケー”と返答する。4人のコミュニケーションが大切。
- ・外野飛球の審判の動きは、どの審判員が追うかは選手が教えてくれる。選手が自分の方を向いたら、ゴアアウトすることになる。
- ・一塁UPが本塁カバー時に、打者走者の一塁触塁を確認する位置は、一塁コーチスボックスの本塁寄りから見ると良く見える。【図1参照】

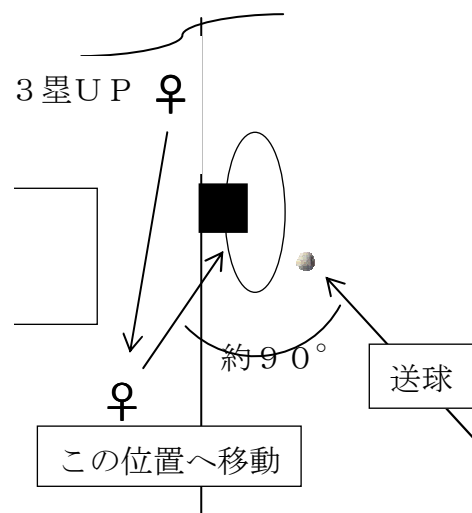
・三塁UPが走者一・二塁、バントの打球を三塁へ送球した場合は、三塁コーチボックスの

本塁寄りから見ると良く見える。一塁のフォースプレイの考え方と同じ。【図2参照】
非常にリスクが大きい点もあるが、メリットもありNPBは今年トライした。

【図1】



【図2】



◆座学

【藤原 三枝子氏】 =WBWCに参加して=

- ・WBWCとは→ (Women's Baseball World Cup)
日本・アメリカ・カナダ・オーストラリア・台湾・キューバ・オランダ・ベネズエラの8か国が参加し、今年の8月10日から10日間、カナダで開催された女性の野球大会。
- ・国際大会は三人制で行われた。自分自身もかなり戸惑った。
- ・ストライクゾーンは各国で異なっているが、カナダはかなりラフであり、ラフすぎるくらいだった。『三枝子はタイトだ』と言われたが、他国が異常にラフすぎている。

【鈴木 孝則氏】 =MLBアンパイアキャンプに参加して=

- ・8日間の日程で今年参加してきた。
- ・学生から日本の某大学の教授まで、幅広い年代の受講生がいた。
- ・実技は二人制がほとんどあり、二人制があって三人・四人制がある。
特に責任区分の明確化を指導される。

- ・フォーメーションでは常に声掛けが重要である。

◆講習会を通しての所感

- ・毎年のように、このアンパイアスクールには、全国各地から色々な団体の審判員が集まって来られます。志しの高い、野球大好きな方がほとんどです。講習内容は基本的に、毎年春に実施される講習会と同じ内容かと思いますが、『基本』ということの重要性を再認識致します。特に基本のG o - S t o p - C a l lは何回も何回も繰り返して行います。それと、色々なプロセスを経た『最新の情報』を入手出来ることが、メリットであると思います。また、この講習会にはアマチュアのトップで活躍される審判員やNPBの審判員のデモを近くで見ることができ、動きの俊敏さやキレにただ見とれるばかりで、大変強い刺激を受けます。審判歴10年の締めくくりに、大変有意義な講習会に参加させて頂いたことに感謝すると共に、来シーズンに向け、更なる審判技術の向上とクオリティーのアップに役立てたいと思います。